

Research Institute for East Asia Environments

九州大学 東アジア環境研究機構



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



www.q-eaep.kyush-u.ac.jp

ごあいさつ Message from RIEAE

九州大学『東アジア環境問題プロジェクト』は、本学百周年記念事業の一環として平成19年9月より発足し、平成21年4月から『東アジア環境研究機構』として新たに生まれ変わりました。『東アジア環境研究機構』では、私たちが東アジア諸国の一員として何をすべきか、これに対する九州大学からの提言を行い、国際産学官連携による環境問題の実践的な解決を目指しています。

現在、世界全体、とりわけ東アジア圏を中心として、深刻な環境被害に直面しています。大気汚染、河川・海洋汚濁、廃棄物問題、食品汚染など、その負の多様化は枚挙に暇がなく、研究者が個別に対応できる範疇を遥かに超えています。『東アジア環境研究機構』は、この複雑化する環境問題を、本学の構成員はもちろん、関連研究機関との連携、民間企業のご支援のもと、機構組織として一元化することで、環境問題の実践的解決に向けた国家レベルでの社会貢献を目標に活動を続けています。

これからの時代は、まさに「アジアの世紀」と呼ぶに相応しいでしょう。中国はもちろん、インドや東南アジア諸国など、新興国の経済発展が著しい反面、それに伴う環境問題の顕在化に目をつぶることはできません。したがって、世界におけるアジアの地位向上を図るためには、環境施策を中心とした資源節約型の持続可能な社会の構築が肝要であります。九州大学は、アジアを重視した知的世界的拠点大学としての役割を担い、その責務を全うしていくべきであると考えます。

このような観点から、九州大学は産学官の連携を深めると同時に、世界から優秀な学生、若手研究者を集めて、活発な人材交流と研究教育による若手人材の育成を推進します。記憶に残る国際交流は、記録に残る国際連携へ進展し、将来を担う人材育成の教育拠点としての役割を果たしたいと考えております。皆様のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



九州大学総長
有川 節夫

東アジア圏の環境問題解決、 未来環境の創成を目指す国際プロジェクト拠点。

東アジア環境研究機構の概要 Outline of RIEAE

東アジア環境研究機構は、「九州大学の知と技術を統合し、東アジア圏の深刻化する環境問題を実践的に解決するための研究活動を通して、環境人材の育成と持続可能な未来環境の創成に貢献する」ことを理念として掲げています。国際的な産官学の連携により、切迫する東アジア圏の多様な環境問題へ即応し、東アジア圏の発展に貢献しようとする先導機関であり、2009年4月に設立されました。また、東アジア環境研究機構は、総長を機構長とする九州大学特定大型研究プロジェクト拠点の一つです。

東アジア環境研究機構は、3つのコンソーシアム（社会基盤、環境共生、環境保全の各コンソーシアム）から構成されており、8つの研究グループ（都市環境、低炭素都市システム、フードリスク研究、水環境、砂漠化防止、大気環境、海洋環境、環境化学の各グループ）と、人文学・経済学・国際法学の視点から東アジア圏の環境問題を扱う環境計画・政策グループが配置されています。東アジア環境研究機構は、学内の7研究院及び6関連研究機関からの総勢約50名の研究者を擁する研究機構であり、国際研究活動であることから国際部、国際産学官連携センター（UNIC）と密接に連携しながら研究を推進しています。

先行的にすすめられている研究テーマには、東アジア圏から強い共同研究の要請があった廃棄物・資源循環、水環境、大気環境があり、中国の同済大学、上海交通大学、清華大学、北京大学、韓国のソウル大学との共同研究を開始しています。

東アジア環境研究機構の歩み History of RIEAE

- 2007年 1月** 梶山千里前総長発声のもと、九州大学百周年記念事業として、東アジアの環境問題解決に向け、本学環境学の専門家を学部横断的に結集
- 2007年 9月** 九州大学百周年記念事業『東アジア環境問題プロジェクト』結成・プレスリリース
- 2007年10月** 九州大学工学研究院附属循環型社会システム工学センターと同済大学環境科学与工程学院が学術交流協定締結
- 2007年11月** 第1回キックオフ・ミーティング開催(福岡)
- 2008年 8月** 第2回東アジア環境問題国際シンポジウム開催(中国・上海)
- 2009年 4月** 有川総長を機構長として『東アジア環境研究機構』設置
- 2009年12月** 第3回東アジア環境問題国際シンポジウム開催(福岡)
- 2010年 5月** 「東アジア環境ストラテジスト育成プログラム」文科省「科学技術振興調整費」採択
- 2010年 9月** 第4回東アジア環境問題国際シンポジウム開催(中国・上海)
- 2010年10月** 人間文化研究機構総合地球環境学研究所と学術交流協定を締結
- 2011年11月** 第5回東アジア環境問題国際シンポジウム開催(福岡)
- 2012年 2月** 鳥取大学乾燥地研究センターと学術交流協定締結
- 2012年11月** 第6回東アジア環境問題国際シンポジウム開催(福岡)
- 2013年 1月** タシケント灌漑・土地改良研究機関 灌漑・水問題研究所(ウズベキスタン)と学術研究交流協定締結
- 2013年11月** 第7回東アジア環境問題国際シンポジウム開催(福岡)

東アジア環境研究機構の組織図 Outline of RIEAE



機構長 有川節夫 総長

副機構長 落合英俊 理事(副学長)

企画・運営委員会

委員長/落合英俊
理事(副学長)
高柳涼一 理事(副学長)
藤木幸夫 理事(副学長)
丸野俊一 理事(副学長)
安浦寛人 理事(副学長)
菊川律子 理事
日野伸一 副学長
プロジェクト推進室長
支援室長
各研究グループリーダー
産学連携センター
事務局関連部長

特別顧問

井村秀文 横浜市立大学 特任教授
楠田哲也 九州大学 名誉教授
小寺山亘 放送大学 副学長
田中耕司 京都大学学術研究支援室 室長

プロジェクト推進室

室長/島岡隆行 教授
郝愛民 特任助教
坂本行正 専門職員
(学術研究推進課)
宮石真誉 事務補佐員

東アジア環境研究支援室

室長/島岡隆行 教授
室長補佐/大槻恭一 教授
宮沢良行 特任准教授
川井晴至 特任助教
堀苑志乃 プロジェクト支援職員
北林恭子 事務補佐員

東アジア環境ストラテジスト育成支援室

室長/島岡隆行 教授
室長補佐/中山裕文 准教授
篠崎真美 特任准教授
渡邊優香 特任准教授
島明日美 プロジェクト支援職員
中島朋子 プロジェクト支援職員

社会基盤コンソーシアム
コンソーシアム長/島岡隆行 教授

- 都市環境グループ
リーダー/中山裕文 准教授
- 低炭素都市システムグループ
リーダー/神野達夫 教授
- フードリスク研究グループ
リーダー/南石晃明 教授

環境共生コンソーシアム
コンソーシアム長/島谷幸宏 教授

- 水環境グループ
リーダー/島谷幸宏 教授
- 砂漠化防止グループ
リーダー/鹿島薫 准教授
- 生物生産環境グループ
リーダー/凌祥之 教授

環境保全コンソーシアム
コンソーシアム長/寺岡靖剛 教授

- 大気環境グループ
リーダー/寺岡靖剛 教授
- 海洋環境グループ
リーダー/松野健 教授
- 環境化学グループ
リーダー/今坂藤太郎 教授

環境計画・政策グループ

リーダー/堀井伸浩 准教授

プログラム担当教員

- 神野達夫 教授(東アジア環境プロジェクト演習)
- 久場隆広 教授(環境ソリューション学)
- 島岡隆行 教授(東アジア環境概論 他)
- 塚原健一 教授(環境プロジェクト・マネジメント)
- 藤田敏之 教授(環境の社会経済分析)
- 中山裕文 准教授(環境システム分析論 他)
- 堀井伸浩 准教授(東アジア環境概論)

() : 担当講義名



研究グループの紹介 Introduction of Research Group

社会基盤コンソーシアム

◎都市環境グループ

東アジアの廃棄物埋立地において、ごみ分解に起因する温室効果ガスや浸出汚水等の環境負荷を削減可能な高度廃棄物処分手法の開発を行います。



インドネシアの廃棄物処分場におけるメタンフラックス測定調査

◎低炭素都市システムグループ

都市のエネルギー消費とCO₂排出の抑制なしに低炭素社会は実現できないとの共通認識のもと、東アジアの都市を持続可能な成長に導くための国際共同研究を推進します。



「ハビタット工学」教育プログラム

◎フードリスク研究グループ

「環食不二」の視点から、環境・食料リスクの予知、制御、管理のための理論の確立と技術開発を目指しています。



東アジアにおける食料の安全性と農業環境資源リスクに関する日中学術シンポジウム

環境共生コンソーシアム

◎水環境グループ

中国の環境汚染の代表例としても有名な太湖水圏を対象に、俯瞰的な水質底質改善方策および生物多様性の保全方策を提案することを目指します。



東チャオシー川における魚類調査

◎砂漠化防止グループ

世界各地で砂漠化防止研究を進めてきました。現在、東アジア地域においてメンバー各自の研究を進める一方、東アジアの砂漠化防止研究機関と連携し、中国・寧夏における共同研究を進めています。



進行する砂漠化

◎生物生産環境グループ

東アジア・東南アジアにおける持続的な農林水産業の発展に貢献するため、生産基盤の環境保全、気候変動・地球温暖化対策、バイオマス資源の再利用などに関する研究を強力に推進しています。



調査対象フィールド

環境保全コンソーシアム

◎大気環境グループ

大都市圏の大気環境に焦点を当て、その改善に資する技術やシステムの開発、提言を、中国を中心とする東アジア諸国と共同して取り組みます。



都市域における大気環境シミュレーション

◎海洋環境グループ

黄海・東シナ海におけるエチゼンクラゲ大発生のような越境環境問題の解決と国際共同研究を推進するために、中国・韓国の研究者と国際ワークショップを開催します。



バーチャルモアリング用水中グライダー実用機動作試験

◎環境化学グループ

省エネ・新エネルギー用の新材料、廃棄物処理・計測技術を通して、東アジア環境問題の解決を目指します。



北京大学・陳先生とのダイオキシン分析討論会

環境計画・政策グループ

東アジアの環境問題を、それを取り巻く社会・経済の動き、あるいは人間行動の視点から捉え、社会システムの解明と支援を行います。また、環境対応を中心に日本の中国進出企業の中国におけるCSR活動を調査・研究します。

アクセスマップ

Access map to RIEAE

◎東アジア環境研究機構周辺地図

九州大学 伊都キャンパス



◎公共交通機関の利用

【福岡空港から】

- 地下鉄+JR+昭和バス：
福岡空港駅（地下鉄空港線／約25分）→姪浜駅で乗り換え（直通列車の場合乗り換え不要）→（JR筑肥線／約8分）→九大学研都市駅→（昭和バス・九大工学部前行／約15分）→九大工学部前バス停

【博多駅から】

- 地下鉄+JR+昭和バス：
博多駅→（地下鉄空港線／約19分）→姪浜駅で乗り換え（直通列車の場合乗り換え不要）→（JR筑肥線／約8分）→九大学研都市駅→（昭和バス・九大工学部前行／約15分）→九大工学部前バス停

- 西鉄バス
博多駅前(A)バス停→（西鉄バス・九大伊都キャンパス行／約58分）→九大工学部前バス停

【天神から】

- 地下鉄+JR+昭和バス：
天神駅→（地下鉄空港線／約13分）→姪浜駅で乗り換え（直通列車の場合乗り換え不要）→（JR筑肥線／約8分）→九大学研都市駅→（昭和バス・九大工学部前行／約15分）→九大工学部前バス停

- 西鉄バス
天神ソラリアステージ前(2B)バス停→（西鉄バス・九大伊都キャンパス行／約45分）→九大工学部前バス停



東アジア環境研究機構

〒819-0395 福岡市西区元岡744番地
TEL : 092-802-2567 FAX : 092-802-2568
E-mail : event@rieae.kyushu-u.ac.jp
<http://www.q-eaep.kyushu-u.ac.jp/>